

<高付加価値型農業取り組む事例>

## ○岩津ねぎのブランド化を通じ高付加価値型農業を実践

### 1. 集落協定の概要

市町村・協定名	兵庫県朝来市 <small>あさごし</small> 物部横田 <small>もののべよこた</small>			
協定面積 2.9ha	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地
	水稲、ネギ			
交付金額 62万円	個人配分			0%
	共同取組活動 (100%)	共同機械の燃料費		10%
		法面コンクリート工事、水路清掃・農道草刈		80%
		揚水ポンプ点検		10%
協定参加者	農業者 17 人、営農組合 1、水利組合 1			開始：平成12年度

### 2. 取組に至る経緯

物部横田集落においては、高齢化の進展により、年々、水田の維持管理が難しくなってきたことから、平成 12 年度より中山間地域等直接支払制度に取組み、魅力ある農業・農村づくりに取り組んできた。

なかでも、集落一体的に機械・農作業の共同化に取り組み、営農組織を育成することを目標に掲げ、平成 20 年には、物部営農組合を設立し、地域農業の担い手として活動している。

### 3. 取組の内容

物部横田集落では、20 年度より、朝来市特産の伝統野菜である「岩津ねぎ」の栽培に取り組み、機械化による大規模栽培を行うとともに、年々、農産物価格が低迷する状況にあって、少しでも有利に販売を行うため、兵庫県特産認定農産物である「ひょうご安心ブランド」を取得し、特別栽培による「岩津ねぎ」の栽培で高付加価値型農業に取り組んでいる。



【岩津ねぎの栽培】



【共同作業による農道の草刈り】

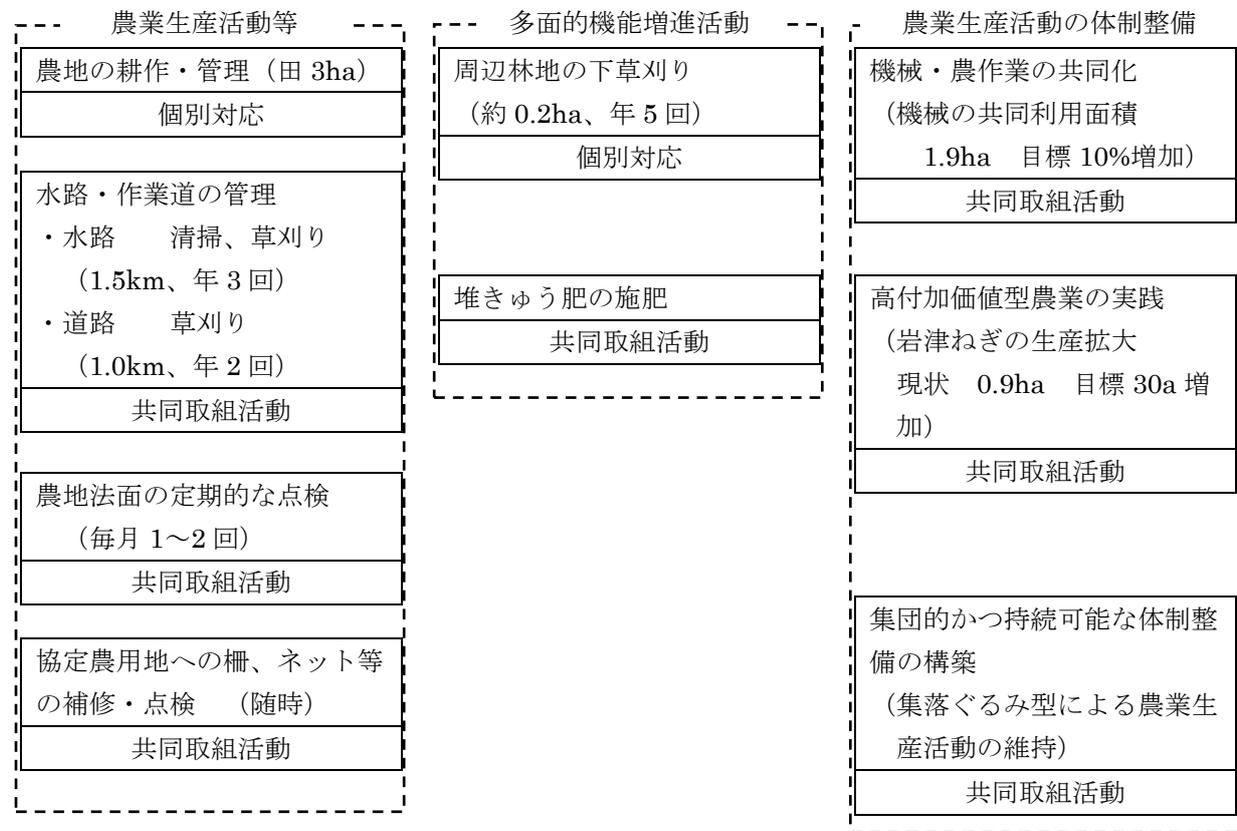
**[集落の将来像]**

- 集積対象者を核とした農業生産活動等の体制整備
  - ・農業の継続が困難な農用地が発生した場合、物部営農組合が引き受け、農業生産活動等の維持を図る。
- 集落ぐるみによる農業生産活動等体制整備
  - ・農業の継続が困難な農用地が発生した場合、協定参加者の共同取組活動により農業生産活動等の維持を図る。



**[将来像を実現するための活動目標]**

- 機械・農作業の共同利用面積の増加（10%増）
- 岩津ねぎの生産面積の増加（30a 増）
- 農業の継続が困難となった場合に備え、サポート体制の維持



**4. 今後の課題等**

物部営農組合を中心に、農作業の共同化を図り、特産品の岩津ねぎの生産量の増加や米の作付面積を増加させるため、共同機械の充実を図っていく。

また、営農組合を中心に農業生産活動を実践していく中で、今後は、定年帰農者等の新たな担い手の確保を目標に、営農活動の継続を目指していく。

**[第2期対策の主な成果]**

- ・共同機械の購入   トラクター   1台   刈払機   1台
- ・獣害対策           柵設置       850m
- ・水路工事           総延長       100m
- ・揚水ポンプ改修工事   1台